

昭和45年(1970) 公園事務所が改築される。



写真■昭和45年の城北公園大池

この頃まで、『池』には両手漕ぎオールの貸しボートが浮かび、隣地の大阪工大の学生や子供連れの家族によく利用されていた。



写真■現在の城北公園大池

『池』には、水質浄化を兼ねた大きく美しい噴水が設置され、来園者を癒し、また力づけてもいる。

昭和49年(1974) 『花木公園整備計画』により、菖蒲園は1.3ヘクタール、13,000株となる。

- (勝負の) 武士や庶民に愛された花菖蒲には、多くの改良品種がある。
- 江戸系、伊勢系、肥後系の約250品種が植えられている。
- 千代の春・猿踊り・白雪・浪花津・業平・富士・ヤタカラス・・・と名称の豊かさ、大輪の見事さに市民の人気は高い。入場料は200円(市内のシニアと学生は無料)。

昭和56年(1981) 国際障害者年を記念して、障害者用設備も整備された。

## 治水改修～公園へ

平成元年(1989) 菅原城北大橋がアーチ状に公園を東西にまたぎ架橋される。

- 公園の真ん中にありながら、アーチをいくつも重ねたまるやかな景観が、丸い大理石のオブジェと共に公園内に優しくマッチしている。



写真■菅原城北大橋全景



写真■オブジェ



写真■菅原城北大橋のアーチ

平成2年(1990)

淀川堤防のスーパー堤防事業が実施され、公園より堤防上へなだらかな芝生のスロープができ、河川公園と一体化した。

- 堤防上には、平和地蔵堂と『千人塚』があり、慰霊祭の6月7日以外にも手を合わせる人が見られる。終戦2ヶ月前の空襲の大惨事が悔しい。
- 堤を東南に降りると、中世鎌倉時代の遺跡『赤川廃寺』の石碑が、堤防直ぐ下には、平安時代より続く日吉神社がある。7月にはだんじり祭りが行われる。



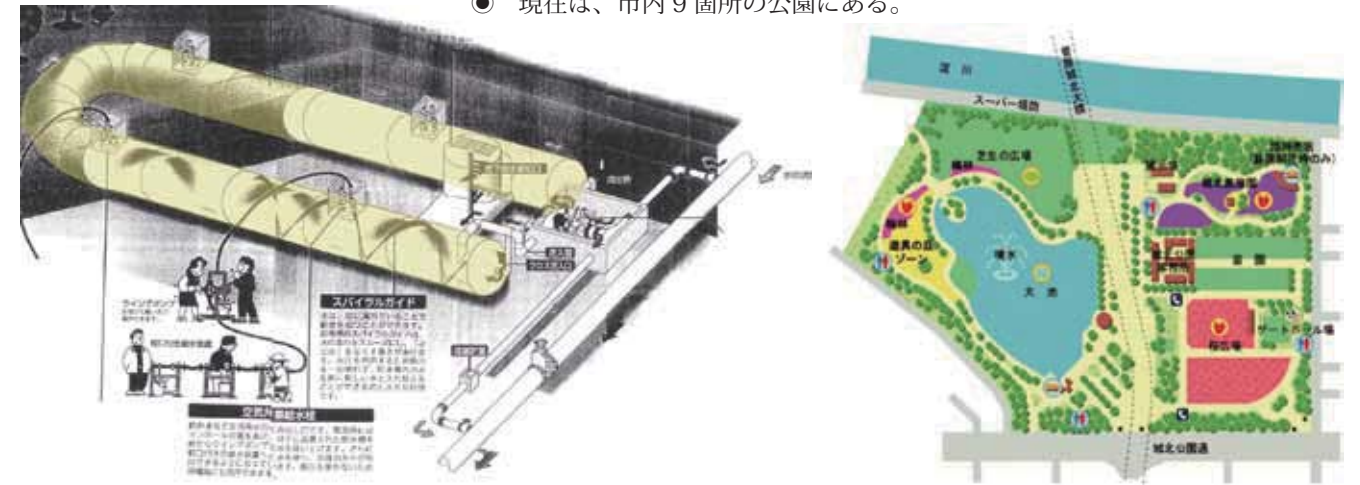
写真■芝生スロープ

平成5年(1993) 東ゾーンにみちばた広場完成

## 飲料用耐震性貯水槽が地下に！

平成7年(1995) 城北公園の地下に、市内で初めてとなる4百トンの飲料用耐震性貯水槽が設置される。

- 災害直後の3日分、一人一日3リットルで4万4千人分の飲料用など、必要最低限の水を確保している。
- 直径3メートル、長さ57メートルの水道管がU字型に埋設されている。
- 現在は、市内9箇所の公園にある。



平成8年(1996) 西ゾーンの池の護岸が整備され、噴水が上がる池をめぐる並木散策路が完成。



- (写真左) 憩いの売店は、池そばにあり三角錐二枚重ねの屋根が見事
- (写真中央) シエル(貝)型風の休憩所は、ヨーロッパ的
- (写真右) メタセコイア、桜、梅などの美しい並木道

## 季節の花



美しい雲海にも似た桜は、公園初期から多くの人々を集め愛された。今も花見のシーズンには多くの人で賑わう。5月の若葉も一段と美しく、森林浴も楽しめる。



現在、園内には和風・中国風の東屋、休憩所、回遊道、小太鼓橋、丸太橋がある。丹精込めて育てられた多くの花菖蒲とよくマッチし、すてきな情緒を感じさせてくれる。

花菖蒲の開花期間は5月下旬から6月半ばで、市内各地から多くの鑑賞者が来園する。「花しょうぶフェスティバル」は平成22年度には第20回を数え、フリーマーケットなどが開かれ、毎年賑やかさを増している。また、フェスティバルの夜は「花しょうぶと音楽の夕べ」を開催している。



城北菊花展も、毎年11月に開かれている。入場無料。昭和30年代から菊を栽培しており、市役所、大阪城、天王寺動植物園、長居公園にも出展している。手入れされた懸崖菊・盆栽菊などが素晴らしい。また、車椅子目線にも合わせた展示になっている。会期中、嵯峨菊・伊勢菊・江戸菊などの古典菊の香りが漂うように管理されている。